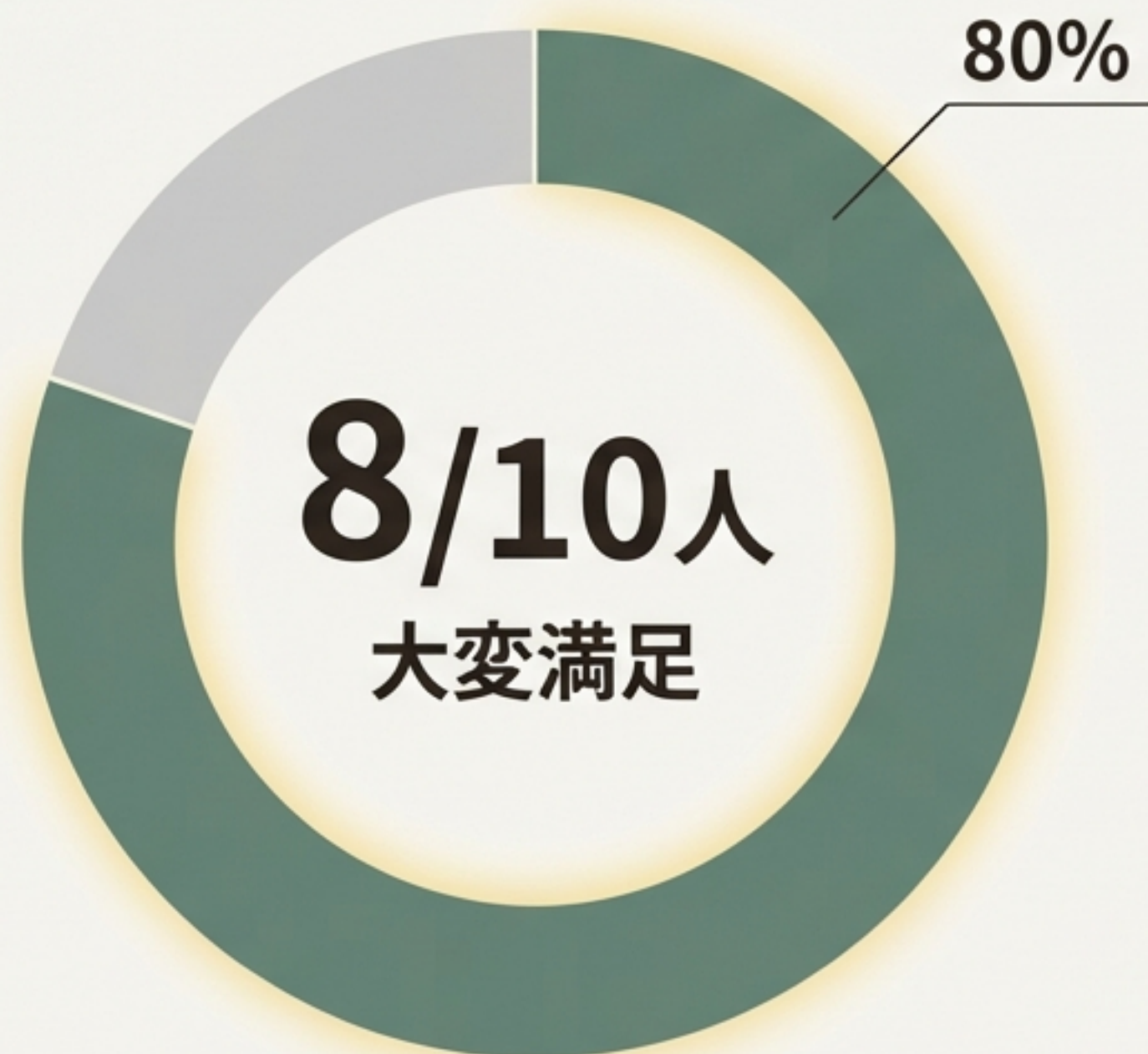


「見る人」から「創る人」へ

都立高校公開講座「スマホでワンランク上の動画制作」インパクトレポート



講座満足度「大変満足」が8割。 熱意あふれる感想が証明する、4日間の価値。



「受講前は長いのかなと思っていたのですが、実際受講すると…あっという間のように感じるくらい楽しく受講できました。」

「動画制作に関して全くの初心者で、私では作れないのではないかと心配でした。そんな私の心配も講師の先生がとても親切に対応してくださったので、気持ちも前向きに取り組むことが出来ました。」

「一つのテーマを決めて、みんなで動画を各自で作って鑑賞し合うのは予想外にも勉強になったと思います！」

この物語の主役：多様な背景を持つ参加者たち



「全くの初心者」

動画制作は未経験。「自分には作れないのでは」という不安を抱えて参加。



「発信したいメッセージがある人」

社会的な課題（例：自衛隊のハラスメント問題）について、YouTubeで発信したいという強い動機を持つ。



「新たなスキルを求める専門職」

自身の専門分野（専門学校講師）に、動画制作のスキルを活かしたいと考えている。



「多忙な社会人」

仕事や他の学習で忙しい中、時間を捻出して新しい挑戦を始めた。

「創る人」へと導く、4日間のロードマップ

Day 1



「声」を見つける

なぜ今動画なのか？ターゲットとストーリーテリングの基礎を学ぶ。



Day 2



「ビジョン」を捉える

プロの撮影技術（構図・カメラワーク）をスマホで実践する。



Day 3



「物語」を磨き上げる

視聴者を惹きつける編集の基本（カット、音、テロップ）を習得する。



Day 4



「創る人」として共有する

完成した作品を鑑賞し、学びを深める「大称賛鑑賞会」。



なぜ今「動画」なのか？

すべてのメディアを貫く「クリエイティブ」の力

日本の通信インフラと スマホの進化



スマホ普及率: **83.2%** (2023年)

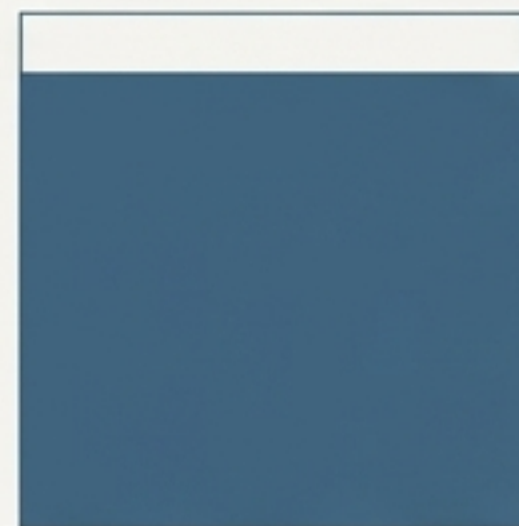


YouTube利用状況: **7,120万人以上**
(18歳以上, 2023年)

スマホでの動画視聴が日常・インフラ化した時代。

認知効果における最大要因は 「クリエイティブ」

クリエイティブ 89%

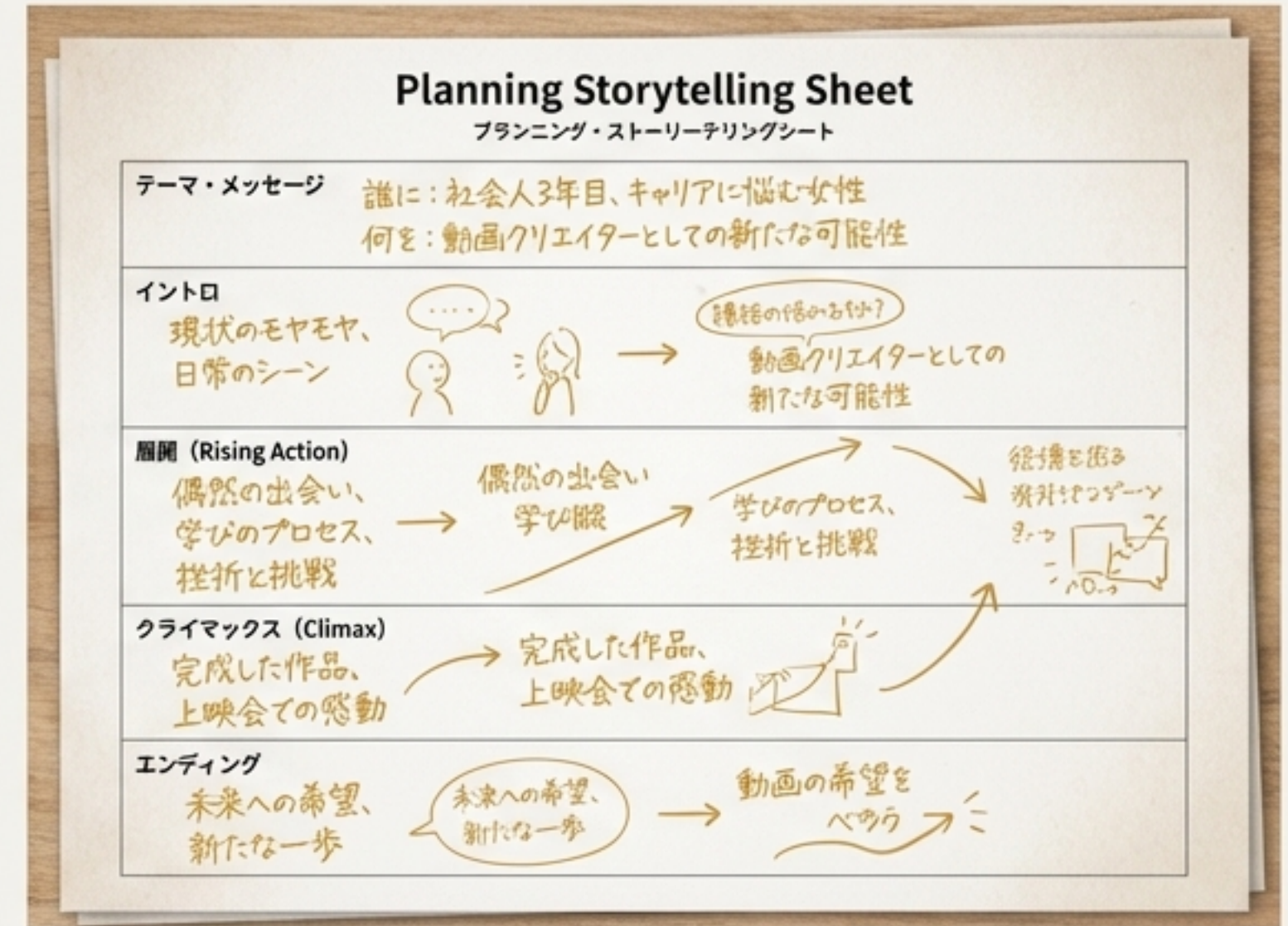


デジタルメディア

伝えたいメッセージを届けるには、
動画の「表現」そのものが鍵となる。

響く動画の設計図：ターゲットを定め、"自分ごと化"させるストーリーを紡ぐ

- ターゲットオーディエンスの設定: 誰に、何を伝えたいのか？
- ストーリーテリング: イン트로、展開、クライマックス、エンディングの構成。
- 共感を生む3つの工夫:
 1. ストーリー性を持たせる
 2. リアルな感情や体験を伝える
 3. 映像や色、音で感情の温度差を合わせる



「講座にストーリーを持たせ、受講者に流れや訴求力を与えるところが興味深く思いました。」

スマホで実現するプロの視点：構図とカメラワークで映像に命を吹き込む

1 構図の基礎



三分割法



奥行き

2 画角 (ショットサイズ)



ロング



ミドル

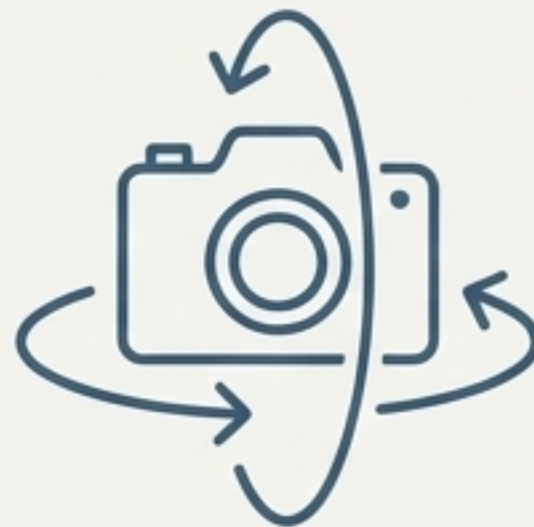


クローズアップ



インサートカット

3 カメラワーク

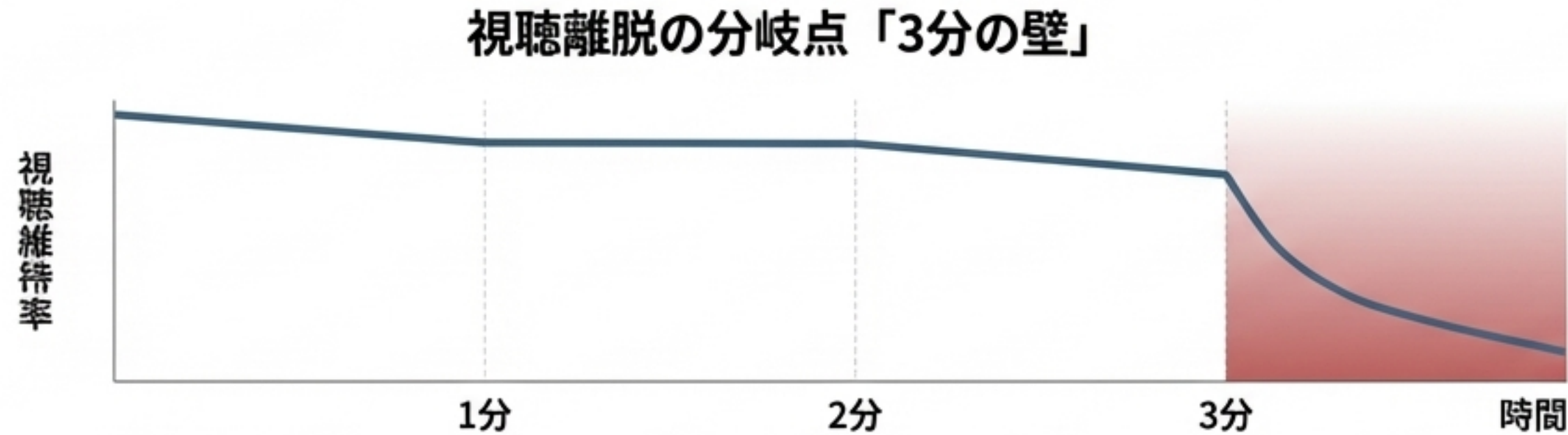


4 音声の重要性



「声が聞き取れないとイラつく」—
クリアな音声が視聴
維持の鍵。

「3分の壁」を越える編集術：カット、音、テキストで視聴者を飽きさせない



視聴者の集中力には限界があり、「タイムパフォーマンス」が重視されるため、冒頭で惹きつけ、テンポの良い構成でなければ離脱されてしまう。

The Solution



カットの長さ・速度

平均1.5～2.5秒のテンポ良いカットと、ズームなどの特殊効果で緩急をつける。



BGM・効果音

映像に合った音楽と「シュツ」「パシャ」などの効果音で感情を増幅させる。



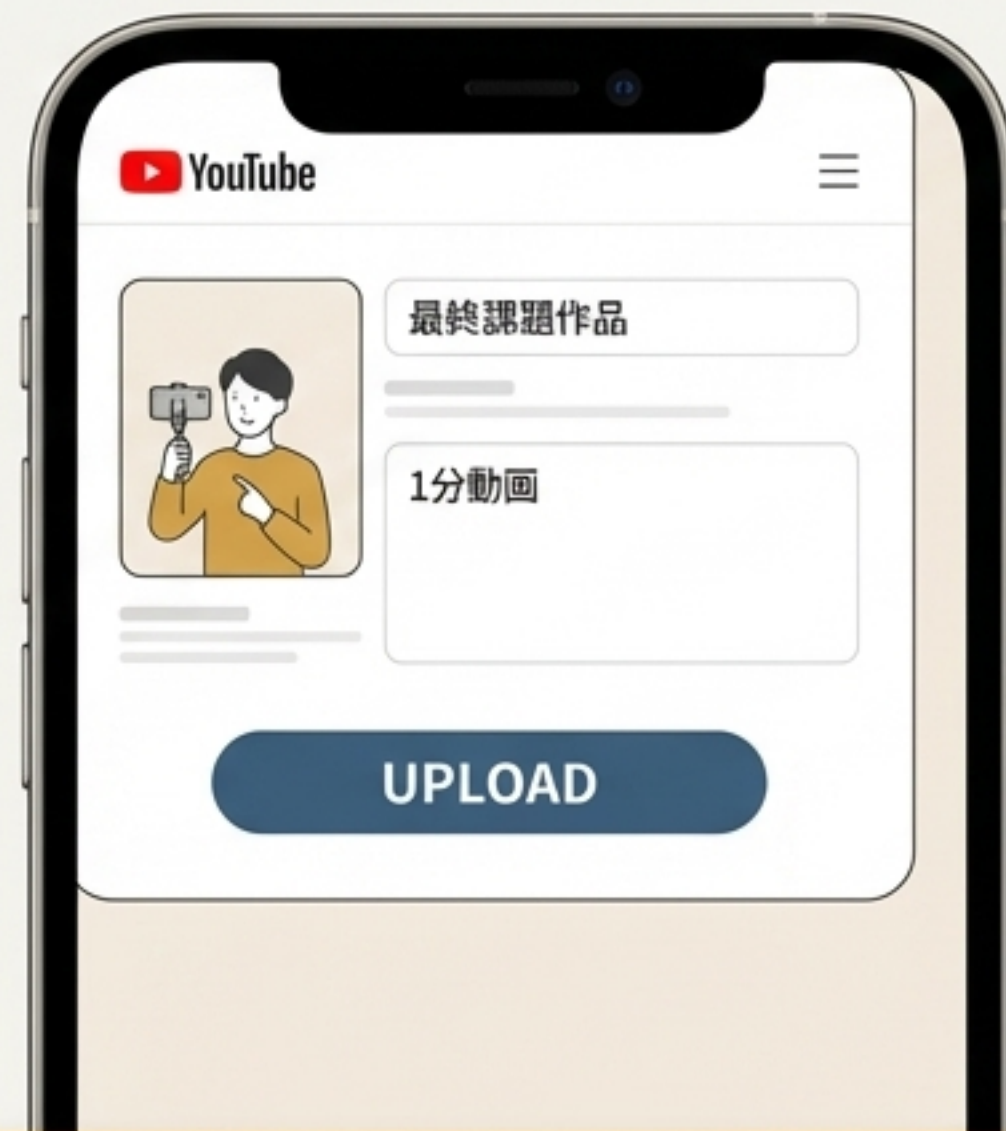
テキスト

タイトルや字幕で情報を補い、視覚的に惹きつける。

「【編集】3分の壁（最後まで見てもらうために）」が特に印象に残った。

学びから実践へ：1分間のYouTube動画制作という最終課題

- 課題: 1分前後の動画作品を完成させる。
- 目的: 4日間で学んだ企画、撮影、編集の全スキルを統合し、アウトプットする。
- 提出方法: YouTubeに限定公開でアップロードし、URLを講師に送付。
- 次へのステップ: 最終日に全員で作品を鑑賞・評価し合う。



「三回目と四回目の間が二週間空いていたのは、とてもよかった。
(さもなければ間に合わなかった。)」

全員がクリエイターに。「大称賛鑑賞会」で生まれた、新たな発見と自信。

最終日は、互いの作品を鑑賞し、講師からのフィードバックや参加者同士の意見交換を通じて学びを深める場。技術だけでなく、多様な視点や表現に触れる貴重な機会となった。

「自分の作った動画に対してフィードバックをもらえると課題も見えるので良かったです。」

UD Shin Go NT
Noto Sans JP

「他の人のような作品は私には合わないから。」

Noto Sans JP



「他の参加者の方々の作品を閲覧することができたり、後々新作を発表できる場があれば面白かったと思う。」

Noto Sans JP

講座がもたらした最も重要な成果：苦手意識を乗り越え、誰もが「発信者」に。

課題を完了した参加者全員が、 YouTubeクリエイターとなりました。

「おもったより簡単に
youtubeに投稿すること
が出来ました。」

「苦手意識が少しばかり
なくなりました。」

「せっかくプロの先生から
いろいろと学んだので、
さらに上達すべく、次の
駄作(笑)を作っている。」

なぜこの講座は成功したのか？参加者の声から紐解く4つの成功要因。



専門的かつ丁寧な講師陣

“「講師の方の教え方がうまく、また飽きさせないよう工夫していただいていた。」
後藤氏と反町氏のチームワークが高く評価。



実践的なプロジェクト 中心の学習

“「講義と実技の構成も良かったです。」
理論を学んだ直後に実践し、最終作品として
アウトプットする構成。



理論とアプリ操作の 絶妙なバランス

“「無料のアプリを紹介してくださったり...
有り難かったです。」
「なぜそうするのか」という理論的背景と、
VNアプリの具体的な操作方法を両立。



協力的でポジティブな 学習環境

“「一緒に受講した方々も良い方々で
雰囲気も良く有り難かったです。」
参加者同士が互いの作品を評価し合う文化。

次のステップへ：参加者の声から見た、さらなる可能性

今後の講座で学びたいこと (Advanced Topics)

- 簡単なロゴやアニメーションの入れ方
- 場面の切り替え方、違う場面を繋ぐ方法
- YouTubeチャンネルの具体的な立ち上げ方

運営に関するフィードバック (Logistical Improvements)

- 支払い方法の多様化（振込・当日支払い）
- 他の講座も含めた、より効果的な広報

「第二弾の講座、期待してます！」

デジタル時代の「生涯学習」として。 創造する喜びと自信を、すべての人へ。

この講座は、単なる動画制作スキルの習得にとどまらず、
年齢や立場に関係なく誰もが自己表現のツールを手にし、
創造する喜びを発見する機会を提供しました。

参加者一人ひとりが「創る人」へと踏み出したこの経験は、
地域社会における デジタルリテラシーと創造性の向上に大きく貢献するものです。

“「年齢や立場に関係なく誰もが受けられるという生涯学習的な要素もあり、
とても良い機会だと思いました。費用も安く、自分がやってみたい、
やりたいことの契機付けにもなるのでとても有り難いと思いました。」”